

学校教育推進室だより

東大阪市教育委員会 学校教育推進室 平成30年12月6日
〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号 TEL06-4309-3268~9

- 東大阪市学校教育基本目標
すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を
- 東大阪市学校教育重点目標
 - 総合的視点に立つ教育の推進
 - 人間尊重に徹した人権教育の実践
 - 信頼に応える学校園経営
 - 学校園・家庭・地域の協働

スタントマンによる交通安全教室

今年も東大阪市道路管理室と警察署交通課と連携し、「スケアード・ストレート方式」を用いたスタントマンによる交通安全教室が、縄手中学校(11月7日)、柏田中学校(11月8日)、花園中学校(11月9日)の3校で実施されました。



「スケアード・ストレート方式」とは、テレビや映画にも出演しているプロのスタントマンにより、実際に自転車やバイク、乗用車や大型トラックなどで事故の状況を再現するものです。そのねらいは、危険な状況を目の当たりにすることで、事故の恐ろしさを体感し、交通ルールを守ることの大切さを学ぶ事です。

特に自転車の乗り方では、①スマホや携帯電話を操作しながら②傘をさしながら③2人乗り④2台横に並んで走る⑤両手離し運転⑥音楽を聴きながら⑦右側走行は非常に危険であることを実演を通して子どもたちへ伝えていただきました。



自転車の傘差し運転や2人乗り、逆走(右側走行)の危険について実演を見て、学びました。

自転車に関連する交通事故は全事故の約2割を占めています。また、自転車は「車のなかま」なので、原則として車道を走らなければなりません。自転車に乗るときは、ルールを守り、安全運転を心がけましょう。

また、自転車だけでなく、車の運転者や歩行者も交通ルールを守って、お互いを思いやり、交通安全につとめましょう。

生徒の感想...目の前で事故が起こる様子を見て、その衝撃に驚きました。事故にあわないように、交通ルールを守りたいと思います。



大型トラックなどは内輪差が大きいので、信号待ちでは、大きく3歩下がって待つことを学びました。



車の運転手からの死角となる位置について、腕を顔の前にかざして、体験しました。

平成30年度大阪府中学校生徒会サミット開催!

～大阪からいじめをなくすために～

平成30年11月10日(土)大阪府庁本館・大阪府議会議場にて大阪府中学校生徒会サミットが開催されました。今年度は昨年度に引き続き「大阪からいじめをなくすために」をテーマに大阪府下43市町村の公立中学校生徒会代表と私立中学校47校の生徒会代表が一堂に会し、お互いの活動についての意見交流や協議を行いました。東大阪市からは、8月に開催された東大阪市生徒会交流会で選出された、小阪中学校の生徒会メンバー2名が市の代表として参加しました。

府議会議場での意見交流の様子



《第1部》・・・グループ協議

協議テーマ

「昨年度からこれまでの取組みの成果と課題について」
「いじめのない学校とは? 生徒会活動のできること」

協議の様子

各グループでは各校から様々な取組みの報告があり、活発な協議が行われました。小阪中学校の生徒も積極的に自校の取組みを発表してくれました。



小阪中学校生徒会による司会の様子



また、今年度は東大阪市が生徒会サミットのワーキング委員に選出され、第2部では司会という大役を務めました。参加したすべての生徒が、いじめをなくすためにどうすればよいかを考え、主体的に自分の意見を発言する姿はとてすばらしかったです。

《第2部》・・・全体意見交流

交流テーマ

「大阪からいじめをなくすために広げたいこと」

交流の様子

小阪中学校の生徒の司会により交流が行われました。参加者から出た様々な意見から以下の3つの「広げたいこと」をまとめました。

- ①何のために取組みを進めているのかという「意義」
- ②何ができるようになったかという「成果」
- ③効果のあった取組みを同じ市内の中学校と共有したり、校区の小学校と連携して取り組む「輪」

エッセイコンテスト
私の好きな東大阪

The Higashiosaka I love

学校教育推進室主催の エッセイコンテストを行いました!

エッセイコンテストとは。

目的

- ・英語に対する学習意欲を育てる。
- ・英作文能力を高める。
- ・5領域の一つである「書く」機会をつくる。

内容

観光ガイドブックの1ページを作成するという想定で、2019年のラグビーワールドカップに訪れる外国からのゲストに、ぜひ紹介したい東大阪市内のお気に入りの場所を、英語文8文以上で紹介する。

応募内容

東大阪市内立中学校に在籍する生徒



↑ 優秀作品です!

審査員(英語指導助手)のコメント

“皆さんの挑戦にとっても感銘を受けています。使用している英語はとても自然で上手に書けています。みなさんが選んだ東大阪の場所は、とても興味深いです。私も訪れてみたいと思っています”

今年度は、昨年度を上回る市内12校972作品の応募がありました。応募作品は、地元の神社、公園、保護者の方によく連れていってもらっているお店など、生徒たちの地元東大阪へのこだわりが随所に見られるものばかりで、生徒たちのアイデアが感じられる力作ぞろいでした。学校教育推進室では、生徒が学んだ英語をいろいろな場面で活用できるようになるため、今後もさまざまな取組みを実施していきます。